

第1部

基本コンセプトの視点から子どもの姿を振り返る

先輩や同僚に語りたくなる子どもの姿(エピソード)を書いてみましょう。
※写真があるようでしたら、添付しましょう。イラストを描いても構いません。

タイトル (考察を書き終えてから、考えてみましょう。)

背景 (エピソードに至るまでの状況を文章で書いてみましょう。)

エピソード

考察 (安定感・必要感・達成感のいずれかの視点から考察してみましょう。)

第2部

基本コンセプトの視点から日常の実践を自己評価する

1~25までを読んで、当てはまる数字に○をつけてください。

1…十分に実践している 2…実践している 3…考えているが実践していない 4…全く考えたことがなかった

1	保育者は、抱っこや手をつなぐなど適切な身体的触れ合いを通して、あたたかな雰囲気を出している。	1	2	3	4
2	保育者は、子どもの表情や身振りなど非言語的な表現を敏感に感じ取り、適切に対応している。	1	2	3	4
3	保育者は、自由な遊びの時間に子どもと個別的な深いかわりをもっている。	1	2	3	4
4	保育者は、個やグループにかかわっているときでも全体の状況を把握するようにしている。	1	2	3	4
5	保育者は、ダイバーシティ(多様性)を常に意識し、子どものステレオタイプ(固定的な考え方や態度)な行動や発言を冷静に受け止め、対応している。	1	2	3	4
6	保育者は、わらべうたや言葉遊び、なぞなぞ、しりとりなど言葉を豊かにする活動を取り入れている。	1	2	3	4
7	保育者は、順番待ちリストなど必要に基づき書いている姿を子どもに見せている。	1	2	3	4
8	保育者は、水を大切に使用したり、リサイクルに心がけたりするなど環境に配慮するモデルとなっている。	1	2	3	4
9	保育者は、クッキングのときに材料を計量したり、作物の大きさを比べたり、拾ってきたどんぐりを種類ごとに分類したりして、分類、対応、比較、測定など算数的な活動に適切に関与している。	1	2	3	4
10	保育者は、遊びや生活の中で、いろいろな場面で「美しい形」や「パターン」にふれる機会をつくっている。	1	2	3	4
11	車輪のある遊具で走り回ったり、身体を十分に動かして遊んだりする空間をつくっている。	1	2	3	4
12	保育者は、子どもと話をするときに「足場かけ」(次の段階に進む援助)や「オープンエンド」(答えが一つではない)を心がけている。	1	2	3	4
13	保育者は、子どもが描いた絵やつくったものについて、子どものコメントや表題を書きとめ、作品に添付している。	1	2	3	4
14	保育者は、子どもがやりたいことを自分で準備したり自分のやり方で遊んだりすることを認め、オープンエンドになるように努めている。	1	2	3	4
15	保育者は、ごっこ遊びの中で、子どもの必要感に基づきながら、お店の看板やメニュー、プライスカードなどを子どもと一緒につくっている。	1	2	3	4
16	保育者は、子どもの記録をもとに、指導計画を作成している。	1	2	3	4